

富山大学

2025
秋号

富山大学ニュースレター autumn.2025. vol.13

News Letter

富山大学HP



X (旧Twitter)



YouTube



Contents

P.1 富山大学附属図書館「ヘルン文庫」の
これまで、そしてこれから
P.4 研究紹介

P.5 富大ニュース
P.8 富山大学基金へのご寄附のお願い

Close-up

クローズアップ 特集

富山大学附属図書館「ヘルン文庫」の これまで、そしてこれから

◆ 富山大学の宝、ヘルン文庫

日本では『怪談』の中の「耳なし芳一」でもよく知られるラフカディオ・ハーン (Lafcadio Hearn, 小泉八雲 1850-1904)。ハーンが所蔵していた蔵書を文庫としたのが富山大学にある「ヘルン文庫」です。

なぜ学術的にも文化的にも稀有な価値を持つ蔵書が富山大学に揃っているのでしょうか。「ヘルン文庫」の由来から、研究価値、今後の展望までを、附属図書館館長である林篤志教授、ハーン研究を多角的に展開している中島淑恵教授、学術コンテンツ課の林和宏さんのお三方に伺いました。



Lafcadio Hearn



『日本——一つの解明』



『怪談』

行く土地土地で新たな感性を得る、ラフカディオ・ハーンの足跡

1850年6月、ギリシャのイオニア海に浮かぶ小島レフカダ島で生まれたハーンは、1852年までこの地で暮らします。父は駐在中のイギリス軍医、母は現地のギリシャ人でした。ハーンが生まれた頃、父は祖国のイギリスに帰任しており、2人が初めて会ったのは1853年。ですから、この明るい南国の記憶は、ハーンにとっては、母につながるイメージとなりました。

ハーンは1852年から1863年の13歳までをアイルランドで過ごします。しかし母は環境に馴染めずギリシャへ帰国、父も再婚しインドへ赴任したため、大叔母のもとで成長しました。

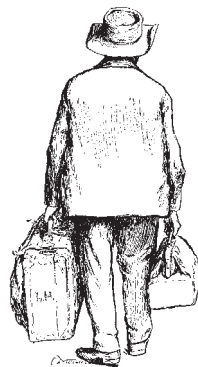
その後、19歳までイギリスにいたとされていますが、遊びの最中の怪我で左目を失明してしまいました。また、父の病死や大叔母の破産で支えを失い、半ば追い出されるようにニューヨークへ向かう移民船に乗り込みました。アメリカではシンシナティで働きながら図書館に通い、苦勞の末、ジャーナリストとして名を馳せるようになります。

その後、ハーンはニューオリンズに渡り、クレオール文化にも

深い関心を示し、古書店を巡り、東洋から美術関係まで様々な文献を蒐集するようになりました。1884年、ニューオリンズで開催された万博博覧会取材したハーンは、農務省派遣の高峰譲吉、文部省派遣の服部一三と出会います。

1890年、ハーパー社の通信員として横浜に到着したハーンは、憧れの日本で寺社めぐりをします。紀行文を書くためにやってきたハーンでしたが、出版社との契約を破棄。万博博覧会で知り合った服部一三や帝国大学のチェンバレン教授の助力で島根県尋常中学校、師範学校の英語教師の職を得ます。松江はまだ近代文明の影響を受けておらず、しかも古代日本発祥の地でした。ここでの経験がハーンの日本研究の基礎となったと言われています。学校では生徒たちに「Hearn」の発音から「へるん先生」と呼ばれ慕われました。また生涯の伴侶となる松江の士族の娘、小泉セツと出会ったのもこの時期でした。

その後、熊本、神戸、東京に暮らし、1904年、54歳で亡くなりました。



優秀な研究者を富山に集めたいという先人の想い

ラフカディオ・ハーン自身は富山を訪れたことはないのに、なぜ彼が所蔵していた蔵書が「ヘルン文庫」として富山大学にあるのでしょうか。ハーンが亡くなった後、蔵書は小泉家で保管されていました。1923年、関東大震災で東京では多くの貴重な文献が消失し、小泉家にはハーンの蔵書を安全に保管できる大学等に一括譲渡したいという強い意向があったと言います。



南日恒太郎



馬場はる

ちょうどその頃、現富山大学の前身の一つとなる旧制富山高等学校設立のため、初代校長となる南日恒太郎が上京していました。南日校長の弟の田部隆次はハーン

の高弟でもあり、『小泉八雲全集』の出版などで小泉セツに協力していました。南日校長は「新設の富山高等学校へ



旧制富山高等学校 全景

全国から優秀な教員を集めるためにはこれらの蔵書が必要だ」と、北前船の交易で資産家であった現東岩瀬の馬場家、馬場はるに購入資金の援助を頼みます。馬場家は小泉家から蔵書を買取り、富山高等学校の開校記念に寄贈しました。南日校長、田部教授、馬場はる氏の富山の未来への願いが、この「ヘルン文庫」には詰まっているのです。

「ヘルン文庫」との出会い、ハーン研究の面白さ

ラフカディオ・ハーン研究を進める中島淑恵教授はこうに話します。「ハーンの蔵書はここにほぼ揃っていて、ごくまれにアメリカの古書サイト等でハーンの蔵書印の入った本が出ることがありますが、可能な限りうちで買っています。だから全くすべてとは言えないですけども、これだけの蔵書が揃っているのは国内だけでなく世界でもうちだけです」。

「ヘルン文庫」の蔵書は、大きく二つに分けられます。ひとつはハーンが1904年に東京で亡くなった時に書斎にあった書物、もうひとつは1890年にハーンが来日した



人文学部 教授 中島 淑恵

時に米国に置いて来たものです。この米国に置いて来た本はハーンの没後遺族に返還されたもので、ハーン自身は生前二度と手にはすることはなかったものです。ヘルン文庫には同じ本が2冊収蔵されていることがたまにあります。それはハーンが、米国に置いて来た本を来日後にどうしても手元に置きたいと思って買い直したものであることが分かっています。

また、364冊の和漢書の他、英語で書かれた本が1352冊、フランス語で書かれた本が719冊あり、ハーンは母語である英語だけでなく、フランス語も自由に読み書きできたことが分かります。

さらに、これら「ヘルン文庫」の蔵書には、ハーン自身の書き込みがあります。これまでの調査で、ハーンが帝大等での講義のためにメモ書きしたものの、作品構想のヒントとしたものの、アメリカ時代のも

のでは翻訳するための資料としたもの等があることが分かっています。



附属図書館 館長 林 篤志



4. 今後も、年を経るごとに貴重になっていく

現在は月1回、学内だけでなく学外の方にも公開されている「ヘルン文庫」ですが、今後はどのような展望があるのでしょうか。林館長はこのように話します。「現在、公開日には『富山八雲会』等からボラン

ティアの方々に来ていただき、説明をしていただいています。元々貴重なものですが、年が経つほどさらに貴重になっていくだろうと思います。そのようなものに触れていただくことができる文庫なんだから、今後とも富山大学の方には全員見てもらいたいと思いますし、他大学や研究者の方、一般の方にも「ヘルン文庫」に触れていただきたいなと思います。」

今後に関して中島教授は「物体なので、いずれ朽ちるといふか、どうしても当時の紙ですから、劣化していくのはもう仕方のないことです。あと鉛筆書きが多いんですけど、書き込みも結構薄くなっていくんですね。マテリアルで寿命のあるものではあるんですけども、現状で次世代に伝えるということも、なるべくいい状態で伝えていくということも大切なことですし、それからデジタルアーカイブ化を図って、そのデジタルで見えるようなものを世界に公開すること

は大事ですね」と語ります。

「少しずつですが電子化は進めていまして、図書館のHPでも一部公開はしています。予算も時間も労力もかかりますが、世界中に研究者がいて、その方達とつながるような話にもなっていると思います」と、林和宏さん。

富山県内の高志の国文学館や博物館などと企画展を行うほか、アイルランド文化を背景に持つハーンが日本との架け橋となり、アイルランド大使館の協力で蔵書を寄贈してもらったり「ヘルン文庫」を中心としたつながりは広がっています。

昨年、創設100周年を迎えた「ヘルン文庫」ですが、今年秋からは妻、小泉セツをモデルにした朝の連続ドラマ放送も決まっており、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）への関心はますます高くなるでしょう。「へるんさん」の息づかいが感じられる「ヘルン文庫」へ是非一度足を運んでみてください。



研究推進部学術コンテンツ課 課長補佐
林 和宏

Information

●「ヘルン文庫」定期公開

毎月第3水曜日13時～16時（中央図書館休館日を除く）に、「ヘルン文庫」を定期公開しています。定期公開日は、事前申込不要で、どなたでも「ヘルン文庫」をご見学いただけます。

● 改修工事 <2025年9月～2027年3月>

中央図書館の半分は改修工事となります。工事期間中はご迷惑をおかけしますが、ヘルン文庫は工事範囲外にあり、引き続き定期公開します。改修完了後、図書館は展示スペースも充実した知的交流の場となりますので、ご期待ください。

お問い合わせ

富山大学附属図書館 ヘルン文庫（中央図書館 5階）

富山県富山市五福3190番地
TEL 076-445-6895 FAX 076-445-6902

詳しくは

<https://www.lib.u-toyama.ac.jp/chuo/>



ステビア含有天然甘味成分を合成する酵素の改良に成功!

和漢医薬学総合研究所 資源科学領域 教授 庄司 翼

ステビアは、天然の甘味成分。消化吸収されないためカロリーがなく、糖尿病や生活習慣病の予防につながると注目されています。和漢医薬学総合研究所の庄司翼教授らの研究グループは理化学研究所、サントリーグローバルイノベーションセンター、大阪大学大学院との共同研究で**優良甘味成分の蓄積を約10倍まで増大させることに成功しました。**

● この研究に取り組んだきっかけを教えてください

これまで約20年間にわたり、タバコ植物に含まれるニコチンの研究を続けてきました。その成果として、ニコチンの大幅な低減に成功しています。しかし、タバコは現在「斜陽産業」となりつつあります。昭和の時代には多くの人が喫煙していましたが、今では喫煙者の姿も徐々に少なくなってきました。

一方で、ステビアは1970年代に日本に導入されて以来、現在も需要が拡大している植物です。消えていく植物と、注目され続けている植物の両方に関わることができているのは、自分にとって非常に意義深いことだと感じています。そして、どちらも「健康」と深い関わりを持っています。

タバコの研究でニコチンを減らすことに成功した経験から、「次はステビアで、より良いことをしたい。今度は“増やす”ことに挑戦してみよう」と思うようになりました。いずれの植物も、**健康、産業、公衆衛生など、多くの人々に影響を与える重要なテーマ**であり、大きなやりがいを感じています。

● 今回の研究で「ステビア」にはどのような可能性があったと感じましたか

ステビアは天然由来の甘味料を持つ植物であり、現在では多くの食品に利用されています。市販の商品を見てみると、成分表示に「ステビア」と記載されているものが数多くあることに気づくでしょう。

ステビアが注目されている理由の一つは、「**甘みがありながら、カロリーがほとんどない**」という特長です。一般的な甘味料であるショ糖は体内に吸収されエネルギー源となりますが、ステビアは吸収されにくいため、カロリーとして換算されず、体重増加の原因になりにくいとされています。

また、ステビアの甘味は非常に強く、ショ糖を1とした場合、およそ300倍の甘味を持つ成分が含まれています。そのため、少量でも十分な甘さを感じることができます。

中でも「レバウジオリドD」や「レバウジオリドM」といった成分は、特に優れた甘味を持っています。しかし、これらの成分は、ステビア由来の配糖化酵素「UGT91D2」の働きが弱いため、植物中に蓄積しにくく、非常に希少です。

そこで今回の研究では、UGT91D2酵素の構造の一部である**特定のアミノ酸を置換することで、その酵素活性を高める**ことに成功しました。この改良型酵素を植物細胞や酵母に導入して実験を行った結果、**甘味成分が約10倍に増加する**という成果が得られました。今後は、実際のステビア植物を用いた研究を進めることで、さらに良好な結果が期待されています。

● 植物由来の成分が使われるのはなぜなのでしょう

甘味料には人工的に合成されたものもありますが、後になって健康への影響が明らかになり、使用が制限されるケースも少なくありません。中には、戦前から使用されていたものの、後に発がん性が判明した例もあります。

一方、ステビアは南米のウルグアイやブラジルの国境付近で、古くから伝統的に利用されてきた植物です。ヨーロッパなどに紹介されたのは約200年前ですが、それ以前から現地でも長い間使われてきた歴史があるため、人体への影響についても比較的安全性が高いと考えられています。

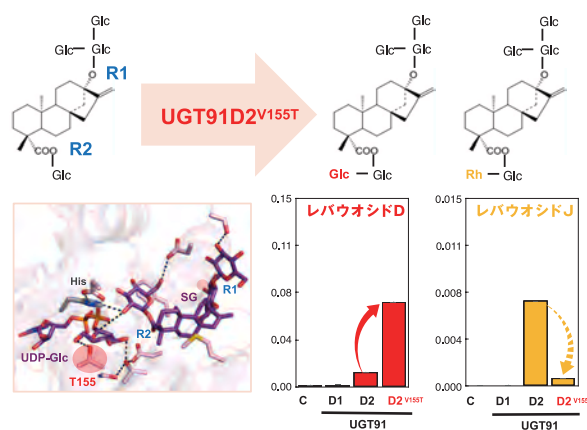
和漢薬と同様に、長い歴史の中で使われてきたという事実は、その安全性や信頼性を裏付ける重要な要素です。実際、ステビアには良好な効果が認められており、現在のところ大きな副作用もほとんど報告されていません。和漢薬が高く評価される理由の一つも、**何千年もの使用実績があり、その効果と安全性が確認されている**という点にあるといえるでしょう。

● 今後、期待されることは?

今回の変異により、酵素の働きが大きく向上しましたが、さらに改良を加えることで、より優れた成果が得られる可能性があります。現在は実験段階として、タバコの細胞や酵母の細胞を用いて成果が確認されていますが、最終的にはステビアそのものの中でこの変異を実現したいと考えています。

技術的にはすでに実現可能な段階にあり、ゲノム編集技術を本格的に活用することで、目的とする改良が達成できると期待しています。研究成果の社会実装を視野に入れ、企業との連携を進めつつ、資金面での支援が得られれば、社会的にも大きなインパクトを与える成果につながると考えています。

現代は「人生100年時代」とも言われ、さまざまな分野で健康寿命の延伸が重視されています。本研究は、まさにその**健康寿命の延伸に深く関与する可能性を持つものであり、社会的にも非常に大きな期待が寄せられている**と言えるでしょう。



UGT91D2配糖化酵素のアミノ酸置換V155Tによる改良





TOMIDAI NEWS

富山大学の障がい者雇用への取り組みについて

我が国の障がい者雇用促進政策は、全ての国民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合う「共生社会の実現」の理念のもとで、障がい者雇用促進法の改正が行われてきました。近年では、障がい者の雇用安定を目的として都度改正が行われています。

富山大学では、このノーマライゼーションの理念を推進し、職業生活においても、障がい者は経済活動を構成する労働者の一員として、本人の意思と能力を発揮して働くことができる機会を確保することを目的として、令和7年4月に総務部グッドジョブチームを設置しました。



現在、グッドジョブチームは室長、コーディネーター及びジョブスタッフ6名の合計8名で構成されています。

グッドジョブチームが担っている主な業務は、本学に関連する情報の収集業務、五福キャンパス各課の資料封入業務、会議室の設営・片付け業務、購入物品の検収業務、五福キャンパス使送業務、機密文書のシュレッダー業務、会議室・ゼミ室・ロッカー室等の清掃業務及びアーカイブズ歴史資料館に関する業務等です。

グッドジョブチームでは、ジョブスタッフに対して各々の障がい特性に応じた配慮を行い、働きやすい環境作りや心理面でのサポートを心がけています。

将来的には、グッドジョブチームで業務スキルが身についたスタッフを、事務補佐員として各部署に配置することも計画しています。

今後は、新たな業務を掘り起こし、大学業務の効率化及び経費削減に貢献するとともに、ジョブスタッフが誇りを持って業務を行える組織となるよう努力したいと考えています。

その他にも、五福キャンパスには、キャンパスクリーンチームがあり、19名の障がい者スタッフによる構内環境整備を行うとともに、7月1日に高岡キャンパスにも3名の障がい者スタッフを迎え、新たに高岡キャンパスクリーンチームとして活動を開始するなど、障がい者雇用推進に積極的に取り組んでいます。

飛騨市と国立大学法人富山大学との連携協力に関する包括協定を締結

2025年3月26日（水）に、五福キャンパスにおいて、飛騨市と国立大学法人富山大学との連携協力に関する包括協定の締結式を開催いたしました。



式では、締結の概要について説明があった後、都竹飛騨市長、齋藤学長が協定書に署名し、包括連携協定を取り交わしました。

また、締結後には、齋藤学長からは、引き続き飛騨市と密に連携して、成果を挙げながら取組を継続していきたいこと、都竹市長からは、行政だけでは解決できない課題に、大学の知と連携して取り組んでいくことが、住みよいまちづくりやウェルビーイングの向上につながると考えていることなどが述べられました。

今後、両者は、地域の諸課題に対して、相互の強みを活かした人的交流及び知的・物的資源の相互活用拡大等を通じて、地域社会の課題解決を図り持続的な発展につなげるとともに、教育研究活動の充実を図っていくこととしています。

中国・内蒙古医科大学訪問団が富山大学を訪問



2025年4月21日から25日にかけて、中国の内蒙古医科大学から臨床医学部生5名、薬学部生5名、引率教員2名の訪問団が本学を訪れました。この訪問は大学間交流協定に基づき実施され、学術交流と文化理解を深める貴重な機会となりました。

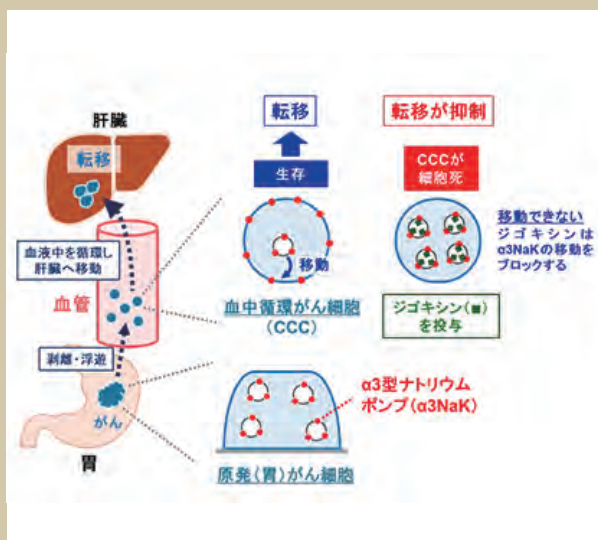
4月21日には、医薬イノベーションセンターで開講式が行われ、松谷薬学部長が本学の紹介を行い、内蒙古医科大学のスリナ教授が挨拶を述べました。その後、薬学部附属薬用植物園の見学や富山大学学生との交流が行われ、両校の学生たちは学術的な議論や文化交流を楽しみました。

強心剤が「がん転移の根源」となる細胞を封じる新機構を発見

富山大学 学術研究部医学系 消化器・腫瘍・総合外科の藤井努教授、附属病院 診療指導医 消化器外科 沼田佳久医師、同薬学系 薬物生理学研究室の藤井拓人講師、酒井秀紀副学長らの、医学・薬学共同研究グループは、がん細胞に異常発現する「 α 3型ナトリウムポンプ」が、元のがん組織（原発巣）では細胞内小胞に局在している一方、原発巣から脱離して血中に移動した「血中循環がん細胞（CCC）」では細胞膜（細胞表面）に移動し、CCCの生存に重要な役割を果たしていることを発見しました。また、強心剤として心不全治療に利用されている「ジゴキシン」は、 α 3型ナトリウムポンプの細胞膜への移動を阻止することで、CCCの細胞死を引き起こし、別の臓器への転移が抑制できることを動物実験で実証しました。本成果は、転移の根源であるCCCを標的とする新たながん治療戦略の開発に貢献することが期待されます。

本研究は、日本学術振興会 科学研究費助成事業、田村科学技術振興財団「The Tamura SY2 Research Project」、富山県アカデミア創薬支援事業（アンメットメディカルニーズ創薬）の支援のもとで行われたものです。

本研究成果は、2025年5月11日（日）に、英国科学誌「Cell Death & Disease」のオンライン版に掲載されました。



技藝院が大阪万博・EUパビリオンで研究セッションに参加



2025年5月4日(日) 本学技藝院の内田和美教授、新谷仁美講師、三上拓哉助教、そして芸術文化学部横山天心准教授の4名が、駐日欧州連合部の招待を受け、大阪万博・欧州連合パビリオンで、イタリア・フィレンツェ大学のピエロ・バリオーニ教授らの研究グループとのセッションに参加しました。

本セッションは、富山大学技藝院の取組と、バリオーニ教授を中心とするEU文化財保存プロジェクトGREENART (外部サイト)との橋渡しを狙いとしたものです。バリオーニ教授が取り組むコロイド界面化学と文化財保存研究とを接合させる着眼点は、本学における無形文化財保存の取組にも汎用可能であり、さらには技藝院のデジタルミュージアム・デジタルファブリケーションによる文化財保存活動への接続をも見据えた、今後の共同研究についての議論を深めました。

学生支援事業 「100円カレー」の実施について



6/10(火)～7/31(木)の毎週火曜日・木曜日に、コメの価格など物価の高騰の影響を受けている学生に対して支援を行うため、富山大学の学生支援事業として、本学のネーミングライツ経費を活用し、「100円カレーの提供」を実施しました。

ENGINEインターンシップが「第8回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード2025」において地方創生賞を受賞

金沢大学・信州大学と本学の3大学が共同で実施しているローカル越境型の実践プログラム「ENGINEインターンシップ」が、「第8回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード2025」において、地方創生賞を受賞しました。

本プログラムは、2020年度より「地域基幹産業を再定義・創新する人材創出プログラム『ENGINE』」の一環として、3大学が連携して実施してきたプログラムです。

全国の1,000を超える法人・1,205件のプログラムの中から、大学連携による新しい学びの場の創出と、実社会で通用する思考力・創造力・実行力を育む点が高く評価され、地方創生賞に選出されました。



祝

受賞者一覧

2025年1月～7月

The 29th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology
Poster Contest Award (Second Prize)

2025年1月22日-24日

富山大学附属病院 病理部
臨床検査技師長
田近 洋介



北東アジアFuture Leadership Program
学生プレゼンテーションコンテスト優秀賞

2025年2月1日

経済学部
経営学科企業経営コース3年
北村 寧々



第27回日本図学会中部支部
奨励賞

2025年2月22日

富山大学芸術文化学系
デザインコース4年生
松栄 乃愛



日本生態学会
Ecological Research 論文賞

2025年3月15日

学術研究部理學系
助教
Peterson Miles Isao



地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)
田中鉅賞

2025年3月15日

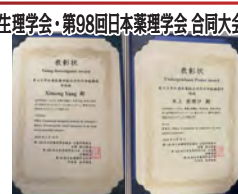
学術研究部教育学系
准教授
成行 泰裕



APPW2025 (第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会 合同大会)

2025年3月17日～19日

Young Investigator Award
和漢医薬学総合研究所 神経機能学領域 助教
楊 熙蒙
Undergraduate Poster Award
同 薬学部薬学科 5年生
末上 亜理沙



日本糖尿病学会
ハーゲドーン賞

2025年5月29日～31日

学術研究部医学系
特別研究教授
戸邊 一之



日本都市計画学会2024年 年間優秀論文賞

2025年6月6日

学術研究部 芸術文化学系 講師
簀谷 祐介
人文社会芸術総合研究科 2年
安倍 ひより



第57回日本医学教育学会大会
優秀賞 (Student Award)

2025年7月28日

富山大学 医学部
医学科5年
伊藤 蒼馬



第42回和漢医薬学会学術大会
学会賞

2025年8月23日

和漢医薬学総合研究所神経機能学領域
教授
東田 千尋



※他の受賞者情報はホームページをご覧ください。<https://www.u-toyama.ac.jp/news-education/>

富山大学基金へのご寄附のお願い

富山大学基金は平成24年に本学の理念・目標である「高い使命感と創造力のある人材育成、地域と世界に向けて先端的研究情報の発信、地域と国際社会への貢献を推進するため本学の学生修学、教育研究等に係る各種事業を支援すること」を目的に設立されました。今後も本基金の趣旨にご理解を賜り、格別のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

基金の種類

一般基金

本学が行う学生修学・教育研究等に係る各種事業の一層の充実を図ります。

リサイクル募金

読み終えた本・DVD・ブランド品等の査定換金額が寄贈される取組です。

特定基金

各部局等が実施する使途を特定した事業への支援に役立てられます。

- 修学支援基金
- 課外活動支援基金
- 医学部基金
- 芸術文化学部基金
- 研究等支援基金
- 経済学部基金
- 工学部基金

基金事業



留学体験記



学部1年次対象 短期海外英語研修

留学先 トゥンクアブドゥルラーマン大学 (マレーシア)

理学部 2年 密 綾花

前年度の学部1年次対象短期海外語学研修に関して、ご支援頂きありがとうございました。私たちの学年は高校3年間をコロナ禍で過ごし、海外に渡航する機会をなかなか得られなかったため、今回のご支援は初めて海外へ行く大きな後押しになりました。

マレーシアでは英語のみならず、様々な文化や価値観に触れることが出来ました。今回の研修を通して、日本とマレーシアには、文化や価値観の面で違いもありますが、似通った部分も多くあることに気がつきました。

私は、このような経験を大学1年生のうちにできた事に大きな意味を感じています。海外と日本は、私が予想していた以上に心理的な距離が近いと実感でき、今後の進路選択の幅も広がりました。今回の経験を糧にして、今後も語学学習を継続していきたいです。



街中での夕食の風景



お世話になった先生と帰国前日に記念撮影



ご寄附のお申し込み、お問い合わせは
富山大学広報・基金室にお願いいたします。

問合せ先：富山大学 総務部 総務課 広報・基金室

TEL：076-445-6178 E-mail：kikin@adm.u-toyama.ac.jp

URL：https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp/



読者アンケートのお願い

「富山大学ニュースレター」のより充実した誌面づくりのため、皆様のご意見・ご要望をぜひお聞かせください。

発行／国立大学法人 富山大学
編集／富山大学広報委員会
問合せ先／〒930-8555 富山市五福3190番地
TEL：076-445-6028 FAX：076-445-6063
E-mail：kouhou@u-toyama.ac.jp